

船舶事故調査報告書

平成22年2月18日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委 員 横 山 鐵 男（部会長）
 委 員 山 本 哲 也
 委 員 根 本 美 奈

事故種類	火災
発生日時	平成21年5月5日 03時00分ごろ
発生場所	鹿児島県熊毛郡中種子町阿高磯沖1海里付近 （概位 北緯30°28.4′ 東経130°53.9′）
事故調査の経過	平成21年8月7日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数等 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{なみじ} 第六波路丸、4.9トン KG3-9295（漁船登録番号）、個人所有 11.65m×2.81m×0.79m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数90、昭和63年3月1日
乗組員等に関する情報	船長 男性 71歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年2月28日 免許証交付日 平成21年3月10日 （平成26年11月1日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長ほか甲板員1人が乗り組み、刺網漁の目的で、平成21年5月5日02時45分ごろ、鹿児島県中種子町所在の屋久津港を出港し、中種子町納宮沖の漁場に向けて阿高磯沖を航行中、03時00分ごろ、機関室付近から出火した。 船長は、延焼が早かったため、消火を断念して海上保安部及び僚船に連絡し、来援した僚船に甲板員とともに救助された。 巡視艇が消火活動を行ったが、本船は、炎上しながら漂流して南種子町子平山海岸に座礁し、満潮時に水没して鎮火した。その後、本船は、撤去して解体された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風速 約3m/s 視界 良好 海象：海上模様 平穏
その他の事項	操舵室床下からビニールの燃えるようなにおいが漂ってきたため、船長が主機を停止して機関室上部の出入口ふたを開けたところ、炎が噴出して操舵室等に延焼した。 電気配線は、主機右舷側に設置された主機直結の24V用発電機から右舷側壁及び船尾側仕切壁に沿って機関室後部両舷側の棚内に収められた各バッテリーに至り、さらに、同箇所から操舵室に導かれていた。

	<p>本船は、平成元年10月に中古で購入されたものであるが、購入以来、電気系統の点検が行われていなかった。</p> <p>船長は、機関室内の点検を10日に1回ほど実施していたが、燃料油や潤滑油の漏洩は認めていなかった。</p> <p>船長は、出港前に排気と共に吐出される冷却海水を確認していた。</p> <p>主機の警報装置は、始動時に警報ブザーが鳴るなど正常な状態にあり、火災発生時、作動していなかった。</p> <p>船長等は、延焼が早かったため、消火活動ができなかった。</p> <p>消火器は、操舵室後部の船倉内に置いてあった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>なし 不明 なし</p> <p>本船は、阿高磯沖を航行中、機関室付近から出火したものと考えられる。</p> <p>本船は、電気配線の劣化により出火した可能性があると考えられるが、出火した原因を明らかにすることができなかった。</p> <p>定期的に電気系統の点検を行うことが望ましい。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、阿高磯沖を航行中、機関室付近から出火したため、発生したものと考えられる。</p>	